

# わんぱく学園ニュース

平成16年 11月号 No108

神帰月……この出雲に集まっていたら800万という万の神様が  
神等去(かたで)祭を終え、全国各地へと。

時あたかも実りの秋——秋の穏やかな日和がことのほか身にしみる今  
日この頃のように思いますが、わんぱく学園の皆さんのあの笑顔・表  
情を時にまぶしく感じることもあります。それは皆さんが、体験の一  
つ、をわくわくドキドキしながら楽しく過ごしているからでしょう。

さて、10月7日松江市総合文化センターにて、皆さんもよくご存  
知の星野富弘さんのトークショー「でも、オレはしあわせです」があ  
りました。自らの体験談や作品に込めた思いなどをお話しになりました。  
やさしさ溢れる語りの中で私の心に深く残った重みのある言葉は  
数々ありました。がその中のひとつ、「私は小さい時は外で遊び、親  
からは仕事をさせられた。田んぼ・山・畑で遊んだガキ大将は、自然の  
中で遊びの大将であった。木に登ったり草花・木の実をとり、ネコヤ  
ナギを割ってみたら宝石みたいなものが出た。子どもの頃の経験がま  
さに今、生きているように思う。

身体が動かなくても、心がしっかりしていれば……。障害者も健常者も  
同じ心をもっている」と。

そして、私は後日ある方からこんな話を耳にしました。星野さんが  
親しい方にお話されたとか。「人間には裏と表がある」とアメリカ  
の友人が語ったが、「そうだ」と自分も思う。絵を描く時も「上手に  
と思うと描けない。ありのまま、そのままがいい…」と。だから自分は  
裏が好きだ。今年全国6ヶ所で個展を開いたが、こうして出向いた所  
は松江だけ。これで2回目。松江が大好き！。宍道湖も大好き！なぜっ  
て表(群馬県)に住んでいるから、裏が好き!!。だから…」ユーモアセ  
ンス抜群の中に大切なことをさりげなく。県立美術館で開催中の「星  
野富弘 花の詩描展」へ2回行き、命の洗濯をさせて頂いた上に、奥  
様らと会場にいらした星野さんに遭遇し、思わず会釈した私でした。

10月に楽しんだ「わんぱく学園」の遊びのひとつを紹介します。

## ハゼ釣り・宍道湖周辺ピッカピカ！

台風の為予定より一週間日延べした17日、私たち24名は、市立文化  
館前バスターミナルから生活バス(廃食油バス—家庭廃食油を回収し、  
収集車や生活バス等の燃料として使用)に乗り、宍道湖へハゼ釣りに  
出掛けました。この日は山陰中央新報社の方の取材もあり、釣りをす  
る前にまず宍道湖を背景に記念写真撮影。それぞれがいつもになく、  
おすまし顔してパチリ！。

当日はちょっぴり波があり湖遊館近くでいよいよハゼ釣り大会開始。

「ハゼは、底らへんに おーらしいよ」

「浮きじゃなく 重りで決めた方が…」

釣り名人の飯塚真澄顧問のあの笑顔や穏やかな声がなく、何となく  
皆の心は語らなくとも淋しそう…。

しかし、糸を張ってあたりを今か今かと待っている子らの表情は真剣  
そのもの。そのうち手ごたえがあり、たぐり寄せてみれば、かわいい  
ハゼばかり…。そんな中突然ひととき大きな声。振り向けばあのパワ  
ー溢れる原教諭の得意満々の笑みで「ホーラ!!」。10数センチ余り  
の大物?(この日は一番の大物)。「よかったね」と共に喜び合いなが  
ら、子どもやお父さんお母さんたちは、自分のペースを崩さずチャレ  
ンジしていました。が誰かさんは「さぁ〜て今度こそ!」と勢い込ん  
でいたその矢先、「あっ!! これは手ごわいぞ〜」と懸命に糸をたぐ  
り寄せながら「ホーラ、見ててご覧!」とあの得意の自慢が。皆は息  
をとめ、じっ〜と私の糸の先をみれば……何と驚くなかれ、魚の形そっ  
くりなヘドロのごみが。「なァ〜んだ、ごみじゃ〜ん!」と大笑い。  
「いいわよ いいわよ、ごみ釣ってこの宍道湖きれいにしちゃうから  
…」と心の中で叫んだのであります。

さて、ハゼ釣り大会の後は宍道湖沿いに歩きながら、園駅まで空き  
缶・ごみ拾いをしました。いっぱいになった袋をそれぞれが家庭に持  
ち帰り、市環境保全課が全戸に配布している収集表を見ながら親子で  
分別し、指定日に出しました。

探検ごっこ～荒神谷遺跡公園

11月24日のわんぱく学園は荒神谷に行きました。

参加者は飯塚誠君、土江広君、福田先生、土江先生、そして私榎野と二人の子ども、泰大と泰海の7人でした。当日はとてもいい天気で、気持ちのいい日でした。荒神谷公園は手入れがよく行き届いているし、自動車も入って来ないので、小さい子ども連れの家族が目立ちます。

かやぶきの古代の家に入ったり、遊具で遊んだりして時間をすごしました。途中から土江先生の発案でゴミ拾いもすることにしました。荒神谷は、朝掃除をされるので余りごみは落ちていませんが、それでもよく探すと所々に、空き缶やペットボトル、キャンデーの包み紙などが落ちていました。せっかく散歩をするなら、袋を持ってゴミ拾いしながらいくと一石二鳥です。いいアイデアだと思いました。

飯塚誠君は、荒神谷に来るのは初めてということで、とても楽しそうにしていました。

天気の良い季節は、むりに家の中で絵を描くこともないなと思いました。太陽の光を浴び、いい空気を吸い、のんびりとして、心の中のキャンパスに思い思いの色を塗るのがいいかなと思いました。福田先生、土江先生お世話になりました。(わんぱく学園副校長 榎野)

わんぱく学園環境探偵団の会話より

「あれっ！こーは(たはのいから)大人が捨てたんじゃないですか？」

大人って正しいこと知らん人もいるんだね」

「せっかくススキや山茶花が僕たちにいい気持ちプレゼントしてくれちゃうに…」 「悲しんでるね!! 草や花や木が…」

子どもらのこのつぶやきを耳にした私は、ノーベル平和賞受賞が決まった、あの木を植える運動を続けてきたケニアの女性ワンガリ・マタイさんの言葉がふと脳裏をよぎりました。

「環境は平和を守るための重要な要素。木を植える時、平和と希望の種も植えるのです。私たちが木を植える時には同時に子どもたちの未来も守っている」と。

私たちの心を癒してくれる身近にあるあの大きな湖宍道湖や出雲平野一面が見渡せる旅伏山、八頭のおろちのお話しが伝わり今では野草野花が咲きそろそろ斐伊川土手そして愛宕山公園などの平田の美しい自然を守り、いつまでも引き継いでいこうという思いから、当学園では戸外遊びを通して大自然をまるごと愛しながら、環境問題の大切さも気づき、ゆっくりと進めています。

どのようなことをしたらよいか？ まず身近なところ、自分ができることから、そしてそれが当たり前前にできるようにになれば……と心ひそかに願っています。

ひとりごと……

この頃おかしね。台風やらくまゆやら地震やら……  
ほくたち私たちを誰かさんが叱ってるかな？

いずれにせよ、「もしも」の時の備えが必要かな？

◆11月の「わんぱく学園」メニューは、下記の通りです。

11月 7日	魚釣り・釣り場周辺ごみ拾い(宍道湖) 榎 福田・原 報 釣さおを持っている人は、用意してね 餌は学園で準備 ※ごみ入れ袋を持ってきてね
14日	粘土球まわしあ・そ・ぼ!! 榎 安食の 齋 おちらと 垣 囲炉裏囲んでの合併鍋(おちらと畑の野菜など) 鍋に入れる物がお家にあったら持って来てね ※7月はおちらとへ直接いらしてもいいですよ
21日	大旅行! 電車バス汽車に乗って宍道湖一周 準備物: おにぎり・お茶・乗り物代 おやつは学園で準備 榎 榎野 齋・内田ムツゴウ・原 報 加電車平田発 9時29分出雲市→JR松江→バス→松江城→バス→宍道湖温泉→加電車平田発?
28日	都合がつかずお休みします (27日おちらとライブVol.1・長さんのおちらとコンサート)

集合時間 9時15分・集合場所 光人塾前駐車場

〈学園の問い合わせ 土江和09077745913〉 (文責 土江和世)